

◎指示があるまで開かないこと。

(令和6年2月3日 16時00分～18時30分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/>

答案用紙②の場合、

101	101
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/>

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **a** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
102	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/>

答案用紙②の場合、

102	102
<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/>

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e 都市部で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の **(a)** と **(c)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
103	●	(b)	●	●	(e)

答案用紙②の場合、

103	103
(a)	●
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	●
(e)	(e)

- (3) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 68歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長150 cm、体重76.5 kg(1か月前は75 kg)、腹囲85 cm。体脂肪率35%。

この患者のBMI(Body Mass Index)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答:

(例4)の正解は「34」であるから①は答案用紙の③を、②は④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104	①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	②	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

104	①	②
	0	0
	1	1
	2	2
	3	3
	4	4
	5	5
	6	6
	7	7
	8	8
	9	9

- 1 好酸球増加がみられる疾患はどれか。
 - a IgA 腎症
 - b 遺伝性血管性浮腫
 - c 抗リン脂質抗体症候群
 - d コレステロール塞栓症
 - e 多発血管炎性肉芽腫症

- 2 終末期がん患者の抑うつ状態への対応で正しいのはどれか。
 - a 不安について医師からは尋ねない。
 - b 誰でも辛いのでから耐えるよう伝える。
 - c 希死念慮の話題を始めた時には制止する。
 - d 楽しかった過去の話については聞き流す。
 - e 気持ちの辛さについて優先順位をつけて対応する。

- 3 妊娠末期に非妊娠時と比較し低下するのはどれか。
 - a 心拍数
 - b 白血球数
 - c 糸球体濾過量
 - d インスリン抵抗性
 - e ヘマトクリット値

- 4 法律とその内容の組合せで誤っているのはどれか。
- a 医療法 ————— 無診察治療の禁止
 - b 児童福祉法 ————— 小児慢性特定疾患の医療費助成
 - c 労働基準法 ————— 産前産後休業
 - d がん対策基本法 ————— がん治療の均てん化
 - e 労働者災害補償保険法 ————— 業務災害に関する給付
- 5 死産届が必要な妊娠週数は何週以降か。
- a 8
 - b 12
 - c 16
 - d 20
 - e 24
- 6 脈管の解剖で正しいのはどれか。
- a 総肝動脈と総胆管は伴走する。
 - b 下腸間膜動脈は尿管に伴走する。
 - c 脾動脈は腹腔動脈から分岐する。
 - d Glisson 鞘には肝動脈、肝静脈および胆管が存在する。
 - e 上腸間膜静脈と下腸間膜静脈が合流して門脈を形成する。

7 脾腫の原因とならないのはどれか。

- a 肝硬変
- b Rotor 症候群
- c 日本住血吸虫症
- d Budd-Chiari 症候群
- e 特発性門脈圧亢進症

8 局所振動による健康障害でみられるのはどれか。

- a Gottron 徴候
- b Heberden 結節
- c Osler 結節
- d Raynaud 現象
- e Romberg 徴候

9 在宅勤務で正しいのはどれか。

- a 労働者は在宅勤務をする権利を有する。
- b 在宅勤務中は健康診断を受診しなくてよい。
- c 在宅勤務中の労働時間は労働者の裁量である。
- d 在宅勤務中の負傷は労働災害補償の対象である。
- e 在宅勤務は新型コロナウイルス感染症の流行によって始まった。

10 特別支援学校の対象となる障害はどれか。

- a 自閉症
- b 学習障害
- c 言語障害
- d 情緒障害
- e 知的障害

11 健康増進法で規定されていないのはどれか。

- a 健康日本 21
- b 受動喫煙防止
- c 食事摂取基準
- d 定期予防接種
- e 国民健康・栄養調査

12 右 Babinski 徴候が陽性になるのはどれか。

- a 右大脳半球病変
- b 左橋病変
- c 右小脳病変
- d 左頸髄病変
- e 馬尾障害

13 自我障害の訴えでないのはどれか。

- a 「自分の考えが他人に操られています」
- b 「自分の考えが抜き取られてしまいます」
- c 「自分の考えでない考えが勝手に浮かんできます」
- d 「自分の考えが電波に乗って世界中に伝わっています」
- e 「自分の考えなど取るに足りない価値のないものです」

14 児の神経学的発達段階で誤っているのはどれか。

- a 1 か月で Moro 反射が認められる。
- b 3 か月で寝返りをする。
- c 7 か月で顔にタオルをかけるとすぐにタオルを取り除く。
- d 10 か月でパラシュート反射が認められる。
- e 12 か月で抱き上げて立位にし、前後左右に倒すと足を出して体を支えようとする。

15 地域医療支援病院に求められる機能はどれか。

- a 高度医療技術の開発
- b 地域住民の栄養改善
- c 質の高い臨床研究の主導
- d 難病患者の療養生活支援
- e 地域の医療従事者に対する研修

16 ワクチンによる予防効果がある癌はどれか。

- a 胃 癌
- b 肺 癌
- c 白血病
- d 膀胱癌
- e 子宮頸癌

17 腹腔鏡所見(別冊No. 1)を別に示す。

画像内に認められないのはどれか。

- a 胃
- b 肝 臓
- c 脾 臓
- d 横隔膜
- e 肝円索

別 冊

No. 1

18 高齢者機能評価簡易版(CGA7)の項目に含まれないのはどれか。

- a 意 欲
- b 経済状況
- c 認知機能
- d 基本的 ADL
- e 手段的 ADL

19 定期的な治療を要する患者で保険診療における訪問診療の対象となる要件はどれか。

- a 認知症の患者
- b 通院が困難な患者
- c 独居の高齢の患者
- d 胃瘻が造設されている患者
- e 夜間に発熱した高齢の患者

20 職業性の白内障と関係がある事業場はどれか。

- a 病院
- b 印刷工場
- c 縫製工場
- d クリーニング工場
- e コンビニエンスストア

21 温度眼振(カロリックテスト)で機能評価できるのはどれか。

- a 外側半規管
- b 外有毛細胞
- c 球形嚢
- d 後半規管
- e 卵形嚢

22 基準集団と対象集団の状況を表に示す。

年齢階級	基準集団			対象集団		
	人口	死亡数	死亡率	人口	死亡数	死亡率
0～14 歳	200,000	200	100.0	2,000	1	50.0
15～64 歳	600,000	900	150.0	4,000	4	100.0
65 歳～	200,000	600	300.0	4,000	8	200.0

※死亡数は年間、死亡率は年間人口 10 万対である。

対象集団の標準化死亡比はどれか。

- a 65
- b 76
- c 110
- d 130
- e 170

23 健常者と進行した COPD 患者との肺気量分画(別冊No. 2)を別に示す。

残気量はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 2

- 24 医療保護入院する患者への説明で適切なのはどれか。
- a 「弁護士と面会することはできません」
 - b 「入院中に任意入院に切り替えることはありません」
 - c 「入院治療が必要な理由や入院目的について自分で考えましょう」
 - d 「治療に納得いかない場合は精神医療審査会に申し立てができます」
 - e 「退院の希望があった場合は72時間以内に退院することができます」
- 25 乳汁分泌を抑制するのはどれか。
- a スルピリド
 - b パロキセチン
 - c プレドニゾロン
 - d プロモクリプチン
 - e メトクロプラミド
- 26 染色体数の減少が原因となる疾患はどれか。
- a Down 症候群
 - b Klinefelter 症候群
 - c Marfan 症候群
 - d Prader-Willi 症候群
 - e Turner 症候群

27 ある疾患への偏見・スティグマを軽減する医療者のアプローチで誤っているのはどれか。

- a 患者の話を傾聴する。
- b 疾患に関する最新の知見を調べる。
- c 患者の特徴を社会通念に従って類型化する。
- d 自分が持っているかもしれない偏見に注意を向ける。
- e 患者が排除されず社会に参画するための支援を検討する。

28 摂取カロリーが約 80 kcalなのはどれか。

- a 鶏卵 1 個(約 50 g)
- b 木綿豆腐 1 丁(約 300 g)
- c 食パン 6 枚切り 1 枚(約 60 g)
- d 米飯(炊飯後)茶碗 1 杯(約 160 g)
- e ビール中ジョッキ 1 杯(約 570 mL)

29 基準値に性差があるのはどれか。

- a 血清 Ca 値
- b 血清 CRP 値
- c 動脈血 PaO₂
- d 血清アルブミン値
- e 血中ヘモグロビン値

30 小児に対する免疫グロブリン大量療法後に接種を延期しなくてよいのはどれか。

2つ選べ。

- a MR ワクチン
- b 水痘ワクチン
- c 4種混合ワクチン
- d おたふくかぜワクチン
- e インフルエンザ桿菌ワクチン

31 介護保険における要介護認定に必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 年金手帳
- b 訪問調査
- c 主治医意見書
- d 保健所長の許可
- e ケアプランの作成

32 出生前診断の中で非侵襲的検査はどれか。2つ選べ。

- a 絨毛検査
- b 羊水検査
- c 超音波検査
- d 母体血清マーカー検査
- e 臍帯血検査(胎児血液検査)

33 写真(別冊No. 3)を別に示す。

新生児マススクリーニングの検体採取時に使用するのはいずれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 3

34 笛音(wheezes)の原因となるのはいずれか。3つ選べ。

- a 気 胸
- b 無気肺
- c 左心不全
- d 気管支喘息
- e 慢性閉塞性肺疾患

35 51歳の男性。左の下腹部から側腹部にかけての痛みを主訴に来院した。昨日の仕事中に軽度の左背部痛が出現したが、30分で軽快した。本日午前8時ごろ電車で出勤中に、左の下腹部から側腹部にかけての強い痛みが突然出現したため受診した。来院の途中に悪心と嘔吐があった。意識は清明。体温36.3℃。脈拍80/分、整。血圧158/94 mmHg。呼吸数20/分。顔色は蒼白で冷汗を認める。腹部に反跳痛を認めない。左の肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白1+、糖(-)、潜血3+、沈渣に赤血球15~30/1視野、白血球1~4/1視野。血液生化学所見：尿素窒素23 mg/dL、クレアチニン1.2 mg/dL、尿酸8.6 mg/dL、Na 136 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 109 mEq/L、Ca 9.2 mg/dL。腹部超音波検査で左水腎症、左腎結石および左尿管結石を認めるものの、腹部エックス線写真で石灰化陰影を認めない。

この患者で予測される結石成分はどれか。

- a 尿酸
- b 炭酸カルシウム
- c リン酸カルシウム
- d シュウ酸カルシウム
- e リン酸マグネシウムアンモニウム

36 69歳の男性。肉眼的血尿を主訴に来院した。1か月前から血尿が出現した。意識は清明。身長176 cm、体重86 kg。体温36.5℃。脈拍68/分、整。血圧118/72 mmHg。腹部は平坦で、腫瘤を触知しない。尿所見：蛋白(－)、糖(－)、ケトン体(－)、潜血3＋、沈渣に赤血球を多数認めた。来院時の膀胱鏡像(別冊No. 4A)と骨盤部造影CT(別冊No. 4B)を別に示す。胸腹部CTと骨シンチグラフィで異常を認めない。

まず行うべき治療で適切なのはどれか。

- a 殺細胞性抗癌薬
- b 腎尿管全摘除術
- c BCG膀胱内注入療法
- d 経尿道的膀胱腫瘍切除術
- e 免疫チェックポイント阻害薬

別 冊

No. 4 A、B

37 生後3時間の女児。在胎26週、700 gで出生した。生後1時間から呼吸障害のため人工呼吸器で管理されている。人工呼吸器モニター画面の気道内圧(太実線)模式図(別冊No. 5)を別に示す。

点線で示した①～⑤のうち、肺胞の虚脱を防ぐために有効な指標はどれか。

- a ①吸気圧
- b ②呼気時間
- c ③吸気時間
- d ④呼気終末陽圧(PEEP)
- e ⑤吸気圧と呼気終末陽圧(PEEP)の差

別 冊

No. 5

38 日齢 28 の女児。1 か月健康診査のため産科診療所に両親に連れられて来院した。在胎 39 週、出生体重 2,850 g。日齢 1 から黄疸が増強したため光線療法を 3 日間実施した。日齢 6 の総ビリルビン 7.3 mg/dL、直接ビリルビン 0.1 mg/dL と改善を認めたため退院した。完全母乳栄養である。来院時体重 3,450 g。体温 36.8℃。脈拍 120/分、整。血圧 80/42 mmHg。呼吸数 32/分。SpO₂ 99%(room air)。皮膚の軽度黄染を認める。眼球結膜に軽度黄染を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。肝を肋骨弓下に 2 cm 触知する。血液所見：赤血球 420 万、Hb 13.6 g/dL、白血球 9,600、血小板 24 万、PT-INR 1.0(基準 0.9~1.1)、APTT 30 秒(基準 32.2 秒)。血液生化学所見：総蛋白 5.7 g/dL、アルブミン 3.8 g/dL、総ビリルビン 6.6 mg/dL、直接ビリルビン 0.1 mg/dL、AST 35 U/L、ALT 32 U/L、尿素窒素 4.1 mg/dL、クレアチニン 0.2 mg/dL。

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b 交換輸血
- c 光線療法
- d 胆道ドレナージ
- e 母乳栄養から人工栄養への変更

39 13歳の女子。全身倦怠感と階段昇降時の息切れとを主訴に来院した。1年前に初経が発来し、月経周期は不規則であった。2か月前から月経が持続している。身長155 cm、体重48 kg。体温36.5℃。脈拍100/分、整。血圧98/56 mmHg。眼瞼結膜は貧血様である。胸部の聴診で胸骨左縁にLevine 2/6の収縮期駆出性雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球407万、Hb 6.1 g/dL、Ht 24%、白血球7,100、血小板42万。血液生化学所見：総蛋白7.1 g/dL、アルブミン4.4 g/dL、総ビリルビン0.5 mg/dL、AST 14 U/L、LD 152 U/L(基準145~270)、尿素窒素13 mg/dL、クレアチニン0.49 mg/dL、Fe 7 μg/dL、総鉄結合能487 μg/dL(基準290~390)、フェリチン3 ng/mL(基準20~120)。診断後に鉄剤投与を開始した。

治療に反応して、最初に増加するのはどれか。

- a 血清鉄値
- b 網赤血球数
- c ヘモグロビン値
- d 血清フェリチン値
- e トランスフェリン飽和度

40 身元不明の中年男性。30分前に震度7の地震で倒壊した建物の下敷きになっているところを救出された。呼びかけに反応がない。呼吸数32/分、浅い。毛細血管再充満時間は3秒。両側下腿は挫滅による大量の出血がある。末梢は冷感が著明である。被災地は広域であり、建物の下敷きになった負傷者が多数いる。

この患者につけるトリアージタグの色で適切なのはどれか。

- a 緑
- b 黄
- c 赤
- d 白
- e 黒

41 56歳の男性。海外で多発している感染症 X に罹患していることを心配し検査目的で来院した。感染症 X が多発している国に半年間滞在し2週間前に帰国した。これまで特段の症状はないという。感染症 X の国外の発生動向および診断と治療に関する情報を入手したい。

入手先として適切なホームページを運営しているのはどれか。

- a 入国管理局
- b 国際協力機構〈JICA〉
- c 世界保健機関〈WHO〉
- d 救急医療情報センター
- e 地域医療支援センター

42 14歳の女子。るいそう及び無月経のため入院中である。小学校の成績は良好であったが、教師と友人との人間関係に悩んでいた。中学校入学後、友人に体重増加を指摘されてから食事摂取を減らすようになった。その後、食事制限に加えて屋内でも多くの時間を立位で過ごしていた。5か月前から続発性無月経となり、1か月前から倦怠感を強く自覚するようになった。自己誘発性の嘔吐や下剤の乱用はない。入院後も食事摂取量は少なく、「太りたくない」と訴える。身長148 cm、体重28 kg。

この患者で認められる所見はどれか。

- a 高血糖
- b 低体温
- c 骨密度増加
- d 高カリウム血症
- e 高ナトリウム血症

43 36歳の初産婦(1妊0産)。妊娠31週5日、下腹部痛と性器出血のため救急車で搬入された。これまでの妊娠経過に異常はなかった。自宅で突然強い下腹部痛と性器出血を訴え、意識は清明だがぐったりしているため、家族が救急車を要請した。31歳時に腹腔鏡下子宮筋腫核出術を受けている。身長162cm、体重64kg。意識レベルはJCS I-1。体温35.1℃。心拍数116/分、整。血圧76/54mmHg。呼吸数28/分。SpO₂98%(リザーバー付マスク10L/分 酸素投与下)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は膨満している。静脈路の確保を行った。

直ちに行う検査で適切なものはどれか。

- a 頭部単純CT
- b 腹部造影CT
- c 腹部超音波検査
- d 子宮動脈造影検査
- e 胎児心拍数陣痛図(CTG)

44 10歳の男児。発熱および頭痛を主訴に両親に連れられて来院した。今朝から関節痛と悪寒とを自覚した。午後から頭痛および倦怠感が出現し、体温が39℃台であったため受診した。関節痛および頭痛は持続している。意識は清明。身長158cm、体重48kg。体温39.2℃。脈拍96/分、整。血圧128/74mmHg。呼吸数22/分。SpO₂98%(room air)。項部硬直を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。インフルエンザウイルス迅速抗原検査は陽性であった。

患者と家族への説明で適切なものはどれか。

- a 解熱後翌日から登校できる。
- b 2日以内は異常行動に留意する。
- c 家族と接するときにはマスクは必要ない。
- d 口渇がなければ水分摂取の必要はない。
- e 抗ウイルス薬は症状がある期間を3日間短縮する。

45 38歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠34週、妊婦健康診査のため来院した。妊娠32週までは特に異常を指摘されていない。既往歴に特記すべきことはない。体温36.9℃。脈拍80/分、整。血圧152/100 mmHg。腹部は軟で子宮に圧痛を認めない。両下肢に浮腫を認める。尿所見：尿蛋白は3+。尿蛋白/Cr比は2.4 g/gCr。血液所見：Hb 11.0 g/dL、血小板18万。血液生化学所見：AST 15 U/L、ALT 10 U/L、LD 180 U/L(基準124~222)。胎児心拍数陣痛図で、胎児はreassuringで子宮収縮は認めない。推定胎児体重は、1730 g(-1.5 SD)、臍帯血流に異常を認めない。

診断はどれか。

- a 妊娠高血圧
- b HELLP 症候群
- c 高血圧合併妊娠
- d 妊娠高血圧腎症
- e 加重型妊娠高血圧腎症

46 43歳の男性。いびきを主訴に来院した。2年前から睡眠時のいびきが大きく、時々息が止まると家族に指摘されている。日中の眠気を感じている。身長172 cm、体重95 kg。血圧152/110 mmHg。咽頭の視診で軟口蓋しか観察できなかった。

診断に最も有用な検査はどれか。

- a 嚥下機能検査
- b 気管支鏡検査
- c 頭部エックス線撮影
- d 発声機能検査
- e ポリソムノグラフィー

47 76歳の男性。右胸痛を主訴に来院した。1か月前から右前胸部痛を自覚し、8日前から右顔面および右上肢の腫脹を伴うようになった。意識は清明。身長159 cm、体重52 kg。体温35.9℃。脈拍96/分、整。血圧138/78 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 95% (room air)。視診と触診とで右胸部から頸部および上肢にかけて浮腫と腫脹とを認める。血液生化学所見：CEA 75 ng/mL(基準5以下)。胸部エックス線写真で右上肺野縦隔側に腫瘤を認めた。胸腹部造影CTで腫瘍による上大静脈の圧排、肝転移と左副腎転移を認めた。肺癌と診断され、右上肺野縦隔側腫瘤への放射線治療を行うこととした。

この患者に対する放射線治療で期待される効果はどれか。

- a 根治
- b 症状の緩和
- c 遠隔転移の縮小
- d 殺細胞性薬の作用増強
- e PD-L1 蛋白質発現減弱

48 53歳の男性。住宅ユニット製造工場の従事者。6か月前に脳血管疾患に罹患した。退院後の外来リハビリテーションを終えて片麻痺の後遺症がある状態で、職場復帰について検討することになった。

職場復帰するために産業医が考慮すべきことはどれか。

- a 出張の制限
- b 夜勤の制限
- c 業務時間の制限
- d 高所作業の制限
- e 接客業務の制限

49 48歳の男性。高血糖を主訴に来院した。事務職であり毎年会社の健診を受けてきたが、異常を指摘されたことはなかった。今年の健診で初めて高血糖を指摘された。意識は清明。身長170 cm、体重76 kg。脈拍64/分、整。血圧134/86 mmHg。皮膚に異常を認めない。頭頸部と胸腹部とに異常を認めない。四肢に浮腫を認めない。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)。血液生化学所見：AST 28 U/L、ALT 42 U/L、空腹時血糖 128 mg/dL、HbA1c 6.7% (基準 4.9~6.0)、総コレステロール 280 mg/dL、トリグリセリド 220 mg/dL、HDLコレステロール 34 mg/dL、尿素窒素 18 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.6 mEq/L、Cl 98 mEq/L。

この患者の病態の評価に有用な検査値はどれか。

- a インスリン
- b グルカゴン
- c コルチゾール
- d 成長ホルモン〈GH〉
- e 遊離サイロキシン〈FT₄〉

50 19歳の男性。交通外傷のため救急車で搬入された。オートバイを運転中に転倒し、右側腹部をアスファルト路面に強打した。搬送中は意識清明で心拍数100/分、整。血圧120/80 mmHg。事故発生から病院への搬送は約45分。搬入後、呼びかけには反応するが時々意識が途切れる。心拍数112/分、整。血圧90/60 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂96% (リザーバー付マスク10 L/分 酸素投与下)。心音と呼吸音とに異常を認めない。右腹部は膨隆し圧痛がある。血液所見：赤血球330万、Hb 11.4 g/dL、Ht 33%、白血球12,800 (桿状核好中球2%、分葉核好中球78%、好酸球2%、好塩基球1%、単球3%、リンパ球14%)、血小板17万。血液生化学所見：総蛋白6.0 g/dL、アルブミン3.9 g/dL、AST 40 U/L、ALT 42 U/L、LD 189 U/L (基準124~222)、尿素窒素23 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 3.7 mEq/L、Cl 107 mEq/L。CRP 0.4 mg/dL。直ちに乳酸リンゲル液の投与を開始した。尿道カテーテルを留置すると血尿を認める。腹部造影CTの冠状断像(別冊No. 6)を別に示す。輸血を行いながら選択的右腎動脈塞栓術を施行したが血圧は84/52 mmHgと上昇しなかった。

次に行うべき治療で適切なのはどれか。

- a 右腎摘除術
- b 自家腎移植術
- c 右腎静脈塞栓術
- d 経皮的右腎瘻造設術
- e 右尿管ステント留置術

別 冊

No. 6

51 11歳の男児。学校に行けないことを主訴に父親に連れられて来院した。乳幼児期の発達は順調だった。就学時から文字を書くことが苦手だったが、ひらがなとカタカナは書けており、成績も中等度を保っていた。小学3年生から漢字の書き取りのミスが目立つようになり、何度学習しても習得できなかった。黒板を書き写すのに時間がかかるため、最近は授業についていけなくなり、次第に登校できない日が増えていく。友人関係におけるトラブルはない。

診断はどれか。

- a 知的発達障害
- b 限局性学習障害
- c 自閉スペクトラム症
- d 注意欠如多動性障害
- e 発達性協調運動障害

52 56歳の男性。高血圧症と糖尿病で治療中である。1年前に職場で管理職に昇進しストレスを感じるようになった。徐々に飲酒量と喫煙量が増え、体重が増加している。家庭血圧は収縮期血圧 140 mmHg 程度で推移している。インフルエンザワクチンの接種を予定している。喫煙は 30 本/日、飲酒は日本酒 2 合/日。身長 168 cm、体重 86 kg。尿所見：尿蛋白 2 +、糖 +。血液生化学所見：HbA1c 7.8 % (基準 4.9~6.0)、eGFR 40 mL/分/1.73 m²。

この患者で三次予防とならないのはどれか。

- a 禁煙
- b 禁酒
- c 運動療法
- d 栄養療法
- e 予防接種

53 職員 500 人の工場内で X 工程に従事している職員の間で肝血管肉腫が多発しているという報告を産業医が受けた。10 年前の工場開設以来、職員の異動はなく同じ職場に継続して勤務している。直ちに全職員の肝血管肉腫検診を行うとともに人事記録を基に (A) X 工程に配置されていた職員 50 人と (B) X 工程に配置されることがない職員 450 人の 2 グループを特定し、過去の健康診断結果および医療機関受診状況を確認した。(A) グループで 6 人が肝血管肉腫に罹患していたのに対し、(B) グループで 1 人が罹患していたことが明らかとなった。

実施した調査の研究デザインはどれか。

- a 症例対照研究
- b 後向きコホート研究
- c ケースシリーズ研究
- d ランダム化比較試験
- e メタ分析〈メタアナリシス〉

54 40 歳の女性。帯下の増加を主訴に来院した。月経周期は 30 日型、整、持続 5 日間。1 か月前から新しいパートナーと 2 人暮らし。身長 160 cm、体重 60 kg。体温 36.2℃。脈拍 72/分、整。内診で子宮は正常大、両側付属器に異常を認めない。膣鏡診で黄色泡沫状の帯下と膣壁の発赤とを認める。

診断に有用な検査はどれか。

- a 血清 TPHA
- b 膣分泌物鏡検
- c コルポスコピー
- d 膣壁擦過細胞診
- e 膣分泌物 Gram 染色

55 34歳の経産婦(2妊1産)。妊娠41週2日、破水感を主訴に来院した。妊娠初期から妊婦健康診査を受けていたが、特に異常は指摘されていなかった。妊娠41週2日、午前7時に破水感を自覚したため午前8時に来院した。子宮収縮の自覚はなかった。陰鏡診にて少量の羊水の流出を認めた。内診で子宮口は3cm開大、展退度は60%、硬度は中等度、児頭下降度はSP-2cmであった。入院管理とし、①午後2時、8分ごとの規則的な子宮収縮が開始した。②午後7時、子宮口は10cm開大、展退度は100%。その後、③児頭は顔面を母体腹壁側へ向けるように回旋した。3回の怒責で児頭が娩出し、④続いて母体腹壁側の肩甲が、その後母体背中側の肩甲が娩出した。⑤児娩出9分後に胎盤が娩出された。

下線部のうち、異常な分娩経過はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

56 近隣住民から水道水の臭いについて保健所に相談があった。①水道水の検査結果を調査したところ臭いに関する項目は基準値内であった。この水道の水源である②河川の検査では、生物化学的酸素要求量(BOD)値が高値であった。その河川の上流には食品工場がある。

下線部①、②の検査基準の組合せで正しいのはどれか。

- a ①環境基準 ②排水基準
- b ①許容基準 ②環境基準
- c ①許容基準 ②排水基準
- d ①水質基準 ②環境基準
- e ①水質基準 ②排水基準

57 昨日午後にかかりつけの医療機関を定期受診した大腸癌終末期の患者が、今朝自宅で心肺停止状態となった。かかりつけの医療機関に搬送されて死亡確認が行われ、直接死因は大腸癌の進行と考えられた。

家族が患者の解剖を希望した場合、適切な対応はどれか。

- a 行政解剖を行う。
- b 系統解剖を行う。
- c 司法解剖を行う。
- d 病理解剖を行う。
- e 解剖を実施しない。

58 68歳の男性。背部の広範な出血斑を主訴に来院した。1週間前から四肢に紫斑がみられるようになった。昨日入浴時に背部の広範な出血斑に気付いたため受診した。高血圧症と心房細動で降圧剤とワルファリンを内服している。血液所見：PT-INR 4.0(基準 0.9~1.1)、活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT) 60秒(基準対照 32.2)。交差混合試験では、患者血漿に正常血漿を添加すると凝固時間の延長は補正された。

治療で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a ビタミン K 投与
- b 第Ⅷ因子製剤投与
- c ワルファリンの中止
- d ガンマグロブリン投与
- e グルココルチコイド投与

59 83歳の男性。意識障害のため救急車で搬入された。夏の日中に長時間の草刈り作業中、ふらつきを訴えていた。その後、意識がもうろうとなっているところを周囲の作業者が気付き、救急車を要請した。2型糖尿病と高血圧症で内服治療中である。意識レベルはJCSⅢ-100。体温38.3℃。心拍数120/分、整。血圧92/50 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂98%(マスク5L/分 酸素投与下)。口腔内は乾燥しており、全身に発汗を認める。血液所見：Hb 15.2 g/dL、Ht 53%。血液生化学所見：尿素窒素 30 g/dL、クレアチニン 1.2 mg/dL、血糖 98 mg/dL、Na 148 mEq/L、K 4.6 mEq/L、Cl 104 mEq/L。

初期対応に用いる輸液で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 生理食塩液
- b アミノ酸製剤
- c 高カロリー輸液
- d 5%ブドウ糖液
- e 乳酸リンゲル液

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

78歳の男性。嗄声を主訴に来院した。

現病歴 : 1か月前に嗄声が出現した。2週間前から飲水時に咳嗽が出現するようになり自宅近くの診療所で鎮咳薬を処方された。咳嗽は改善せず、3日前から喀痰に血液が混じるようになった。

既往歴 : 3年前に原発性肺癌のために右肺下葉切除術が施行され経過観察となっていた。1年前から自己判断で定期的な受診を中断していた。

生活歴 : 65歳までは会社員。妻と2人暮らし。喫煙は70歳まで20本/日を50年間。飲酒はビール350mL/日。

家族歴 : 弟が70歳台で胃痛。

現症 : 意識は清明。身長162cm、体重54kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧124/72mmHg。呼吸数16/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張は認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)、潜血(－)。血液所見：赤血球380万、Hb13.8g/dL、Ht35%、白血球7,600、血小板24万。血液生化学所見：総蛋白6.0g/dL、アルブミン3.0g/dL、総ビリルビン0.7mg/dL、AST25U/L、ALT19U/L、LD343U/L(基準124～222)、尿素窒素24mg/dL、クレアチニン0.8mg/dL。胸部エックス線写真で右第1弓の突出を認める。胸部造影CTで縦隔リンパ節腫大を認めた。腹部造影CTと骨シンチグラフィで異常を認めなかった。腫大した縦隔リンパ節に対して超音波内視鏡下に穿刺生検を施行し、肺腺癌術後のリンパ節再発と診断された。

60 次に行うべき検査はどれか。

- a 頭部造影MRI
- b 腹部造影MRI
- c 頸部超音波検査
- d 肺動脈造影検査
- e 肺血流シンチグラフィ

61 縦隔リンパ節の局所再発に対して化学放射線療法を施行した。その後、薬剤性肺障害による呼吸不全をきたし、気管挿管による人工呼吸療法となった。薬剤性肺障害に対して治療を継続したが、呼吸状態の改善がみられない。14日経過後も長期間の人工呼吸療法が必要な状態である。

この時点での呼吸管理で適切な処置はどれか。

- a 気管切開術
- b ECMO 導入
- c 声門上器具挿入
- d 経鼻エアウェイ挿入
- e 非侵襲的陽圧換気(NPPV)導入

62 その後、薬剤性肺障害が改善し人工呼吸器から離脱、一般病棟へ転棟となった。リハビリテーションを開始して身体機能と食事摂取量は回復し、入院してから2か月後に自宅退院となった。退院して1か月後に家族に付き添われて外来受診した。かろうじて自力歩行しており体重は3か月前から10kg減少していた。全身精査を行ったところ、縦隔リンパ節は以前よりさらに腫大し新たに肝臓と肺に多発転移を認めた。患者本人と家族は積極的な治療を望んでいない。疼痛を認めないが、癌悪液質が進行していると診断された。

この時点で行うべき対応はどれか。2つ選べ。

- a 放射線療法を勧める。
- b 緩和ケアについて説明する。
- c 在宅ケアに関する患者の意向を聞く。
- d 異なる種類の殺細胞性薬による治療を勧める。
- e 免疫チェックポイント阻害薬による治療を勧める。

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

55歳の男性。便秘を主訴に来院した。

現病歴 : 3か月前に会社内で配置転換があり勤務中にトイレに行きにくくなった。元々、便秘がちであり便が硬くなった。2週間前から腹部膨満感が出現したため受診した。排便回数は3日に1回でいきむことなく排便しているが、便は兎糞状である。

既往歴 : 45歳から高血圧症で降圧薬を服用している。今まで大腸がん検診を受けていない。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。会社員で経理の仕事をしている。海外渡航歴はない。

家族歴 : 父が74歳時に大腸癌で手術。

現症 : 意識は清明。身長165 cm、体重68 kg(体重の増減はない)。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧136/80 mmHg。呼吸数10/分。SpO₂ 97%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内にアフタを認めない。甲状腺と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で腸雑音の亢進・減弱を認めない。直腸診で血液を認めず、明らかな腫瘤を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)、潜血(－)。血液所見：赤血球468万、Hb 13.9 g/dL、Ht 42%、白血球8,300、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン3.9 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、直接ビリルビン0.4 mg/dL、AST 22 U/L、ALT 18 U/L、LD 172 U/L(基準124～222)、ALP 83 U/L(基準38～113)、 γ -GT 32 U/L(基準13～64)、アミラーゼ95 U/L(基準44～132)、尿素窒素12 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、血糖98 mg/dL。CRP 0.2 mg/dL。胸部エックス線写真では心胸郭比46%、肺野に異常を認めない。腹部エックス線写真で小腸ガスや鏡面像を認めない。まず便潜血反応を行うこととした。

63 この患者の大腸に何らかの病変がある検査前確率(事前確率)を20%としたとき、便潜血反応陽性であった場合の検査後確率に最も近いのはどれか。

ただし、便潜血反応の感度は80%、特異度は90%とする。

- a 33%
- b 53%
- c 57%
- d 67%
- e 97%

64 便潜血反応陽性であったため下部消化管内視鏡検査を行うこととした。

この患者への検査当日の前処置で適切なのはどれか。

- a 下半身を除毛する。
- b 肛門周囲を消毒する。
- c 腸管洗浄液を内服する。
- d バリウムを内服する。
- e ホルマリンを注腸する。

65 下部消化管内視鏡のS状結腸像(別冊No. 7A~D)を別に示す。

この患者に行われた内視鏡治療はどれか。

- a 異物除去術
- b ステント留置
- c 静脈瘤硬化療法
- d ポリペクトミー
- e 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)

別冊

No. 7 A~D

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

61歳の男性。交通外傷のため救急車で搬入された。

現病歴 : 乗用車で走行中に扉に衝突し腹部を強打し動けない状態だった。シートベルトを装着しておりエアバッグが作動していた。目撃者が救急車を要請した。

既往歴 : 虚血性心疾患で抗血小板薬を服用している。

生活歴 : 飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父と兄が高血圧症で治療中である。

現症 : 意識は清明。身長162 cm、体重54 kg。体温37.0℃。心拍数112/分、整。血圧80/44 mmHg。呼吸数26/分。SpO₂ 98% (リザーバー付マスク10 L/分酸素投与下)。皮膚は四肢に冷汗と湿潤を認める。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内は乾燥している。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は膨満しており、肝・脾を触知しない。腸雑音は減弱している。

検査所見 : 血液所見：赤血球410万、Hb 10.1 g/dL、Ht 40%、白血球10,300 (好中球75%、好酸球1%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球17%)、血小板32万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dL、アルブミン4.0 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、直接ビリルビン0.2 mg/dL、AST 65 U/L、ALT 34 U/L、LD 177 U/L (基準124～222)、ALP 55 U/L (基準38～113)、 γ -GT 32 U/L (基準13～64)、アミラーゼ130 U/L (基準44～132)、CK 382 U/L (基準59～248)、尿素窒素22 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、尿酸6.2 mg/dL、血糖228 mg/dL、HbA1c 5.8% (基準4.9～6.0)、Na 142 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 97 mEq/L。

66 この時点での適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 血小板輸血を行う。
- b 鎮静薬を静脈内投与する。
- c 乳酸リンゲル液を急速投与する。
- d 体位を逆 Trendelenburg 位にする。
- e 迅速簡易超音波検査(FAST)を行う。

67 その後、頭頸部単純CTでは異常を認めなかった。胸腹部造影CTでは脾臓損傷、脾臓内および周囲の造影剤血管外漏出像、腹腔内遊離ガス及び腹腔内液体貯留を認めた。気管挿管を行い、緊急手術を予定した。

術前の対応で誤っているのはどれか。

- a 低体温にする。
- b 輸血を準備する。
- c 抗菌薬を投与する。
- d 血液凝固検査を行う。
- e 動脈血ガス分析を行う。

68 小腸、腸間膜および脾臓の損傷に対して小腸切除と脾臓摘出を行った。小腸は浮腫が認められたが、閉腹は可能であった。ICU入室後、心拍数68/分、血圧132/76 mmHgまで改善した。動脈血ガス分析(調節呼吸、 $F_{I}O_2$ 0.3)はpH 7.40、 $PaCO_2$ 35 Torr、 PaO_2 180 Torr、 HCO_3^- 21 mEq/L、BE -6 mEq/Lであった。

この段階で腹部コンパートメント症候群を評価するために腹腔内圧をモニターする際、最も有用な測定部位はどれか。

- a 胸腔
- b 食道
- c 頭蓋内
- d 動脈内
- e 膀胱

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

72歳の女性。物忘れのため心配した夫に伴われて来院した。

現病歴 : 1年前から、時折、財布の中にある金額があわないと訴えることがあった。半年前から「家に知らない子どもが遊びに来ているが、挨拶をしてくれない」という発言を繰り返すようになった。物忘れが徐々に悪化するため受診した。気分の落ち込みはなく、趣味のガーデニングは楽しめている。睡眠障害と睡眠中の行動異常を認めない。夫によると、知らない子どもが家に遊びに来たことはないという。

既往歴 : 25歳時に異所性妊娠で手術。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。夫と同居。車で30分の距離に長女夫婦が住んでいる。

家族歴 : 父親は肺炎、母親は脳梗塞で死亡。

現症 : 意識は清明。意思疎通は可能で、礼節は保たれている。身長157 cm、体重52 kg。体温36.2℃。脈拍88/分、整。血圧132/76 mmHg。呼吸数12/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部に異常を認めない。歩行は前傾姿勢で、歩幅はやや小刻みである。脳神経系に異常を認めない。四肢筋力は正常だが、四肢に歯車様筋強剛を認める。腱反射は正常で、運動失調、感覚障害を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液所見：赤血球438万、Hb 13.2 g/dL、Ht 40%、白血球5,800、血小板18万。血液生化学所見：AST 26 U/L、ALT 18 U/L、LD 162 U/L(基準124～222)、 γ -GT 16 U/L(基準9～32)、アンモニア 22 μ g/dL(基準18～48)、尿素窒素 16 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、血糖 96 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 98 mEq/L。CRP 0.1 mg/dL。頭部単純MRIでは大脳皮質の萎縮を認める。

- 69 この患者に行う検査で最も適切なのはどれか。
- a Rorschach テスト
 - b 標準型失語症検査〈SLTA〉
 - c 改訂長谷川式簡易知能評価スケール
 - d 日本版 Denver 式発達スクリーニング検査
 - e Hamilton うつ病評価尺度〈Hamilton Rating Scale for Depression〉
- 70 この患者に適切な薬剤はどれか。
- a ドネペジル
 - b メラトニン
 - c クロナゼパム
 - d パロキセチン
 - e ハロペリドール
- 71 この患者の今後について、アドバンス・ケア・プランニング〈ACP〉を行う方針となった。
- 誤っているのはどれか。
- a 多職種で支援する。
 - b 患者より夫の意向を優先する。
 - c 話し合った内容を記録に残す。
 - d 患者が話しやすい環境を整える。
 - e 患者の意思を繰り返し確認する。

次の文を読み、72～74の問いに答えよ。

78歳の男性。意識混濁のため救急車で搬入された。

現病歴 : 8年前の健康診断で高血糖を指摘されたが、そのままにしていた。半年前から体重が10 kg以上減少した。口渇を自覚し疲れやすくなったため、ジュースや栄養ドリンクをよく飲むようになった。2日前から微熱と倦怠感の訴えがあり、一日中ベッドで横になっていた。本日、家族の呼びかけに応答しなくなったため家族が救急車を要請した。

既往歴 : 25歳時に肝炎。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 長男が糖尿病で治療中である。

現症 : 意識レベルはJCS II-10。身長168 cm、体重51 kg。体温37.2℃。心拍数92/分、整。血圧100/64 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂ 98%(room air)。対光反射は両側ともに迅速である。咽頭は腫脹や発赤を認めない。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音を聴取しない。腱反射は低下している。

検査所見 : 尿所見：蛋白(一)、糖4+、ケトン体(一)、潜血(一)。血液所見：赤血球552万、Hb 15.0 g/dL、Ht 48%、白血球10,600、血小板35万。血液生化学所見：総蛋白8.2 g/dL、アルブミン4.0 g/dL、総ビリルビン1.0 mg/dL、直接ビリルビン0.2 mg/dL、AST 38 U/L、ALT 40 U/L、LD 208 U/L(基準124～222)、ALP 112 U/L(基準38～113)、 γ -GT 84 U/L(基準13～64)、アミラーゼ120 U/L(基準44～132)、CK 162 U/L(基準59～248)、尿素窒素42 mg/dL、クレアチニン1.8 mg/dL、尿酸10.8 mg/dL、血糖936 mg/dL、HbA1c 13.0%(基準4.9～6.0)、総コレステロール262 mg/dL、トリグリセリド280 mg/dL、血清総ケトン体150 μ mol/L(基準130以下)、Na 137 mEq/L、K 5.0 mEq/L、Cl 102 mEq/L。CRP 0.5 mg/dL。12誘導心電図で異常を認めない。胸部エックス線写真で心胸郭比46%。

72 この患者で認める可能性の高い身体所見はどれか。

- a 眼球陥凹
- b 手指振戦
- c 下腿の圧痕性浮腫
- d 呼気のアセトン臭
- e 足母趾基部の発赤腫脹

73 血清浸透圧を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答： mOsm/L

- | ① | ② | ③ |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 |
| 5 | 5 | 5 |
| 6 | 6 | 6 |
| 7 | 7 | 7 |
| 8 | 8 | 8 |
| 9 | 9 | 9 |

74 インスリン治療とともに開始する輸液の組成で適切なのはどれか。

	Na ⁺ (mEq/L)	K ⁺ (mEq/L)	Cl ⁻ (mEq/L)	Lactate ⁻ (mEq/L)	ブドウ糖 (%)
a	154	0	154	0	0
b	84	20	66	20	3.2
c	35	20	35	20	4.3
d	30	0	20	10	4.3
e	0	0	0	0	5.0

75 血清クレアチニン値 1.0 mg/dL、24 時間蓄尿の尿量 1,200 mL、蓄尿中クレアチニン濃度 48 mg/dL。

体表面積補正なしでクレアチンクリアランス (mL/分) を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第 1 位を四捨五入すること。

解答： mL/分

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9

